

キクザキイチゲ (学名: *Anemone pseudo-altaica*)

[キンポウゲ科 イチリンソウ属]



<開花中のキクザキイチゲ>



<日陰になり花を閉じたキクザキイチゲ>

※2



キクザキイチゲ (別名: キクザキイチリンソウ) は、“スプリング・エフェメラル※1”と呼ばれる春植物の一つで、只見の春を代表する花の一つです。

4月下旬～5月に山地の落葉樹林内や日当たりのよい斜面、林縁などで雪解けが始まると、他の植物が葉を開く前に我先にと花を咲かせます。只見町では“コデ”や“コデノハナ”などと呼ばれ、町内のいたるところで、風に揺れる可憐な花を見ることができます。“コデ”の意味を調べてみたのですが、80歳を過ぎたおばあちゃんに聞いても「昔からコデノハナと呼ばれていてそう教わったから意味までは解らない」ということでした。もしご存知の方がいたらぜひ“コデ”の意味を教えてください

たいものです!

キクザキイチゲは、北海道から本州(近畿地方以北)に分布するキンポウゲ科の多年草です。高さは10～20cmほどで、茎には深く切れ込みの入った3出複葉※2が3個輪生します。

茎頂には、直径3cm程の花を1個咲かせます。花の色は、白色～淡紫青色と変化があり、濃い紫色や薄桃色のなども見られます。太平洋側では、白い花しか見られませんが、日本海側では様々な色の花が見られ、只見でも白い花と紫の花が並んでいるのを見ることができます。また、キクザキイチゲは日中、陽の光を受けると花が開き、日陰や夜間光が当たらなくなると花を閉じます。

※1 エフェメラル: 短命なもの儚いものという意味。花が終わり、種子を作ると地上部の葉は枯れて無くなり、翌春まで見ることが出来ないところからきています。5月の連休の観察会は、キクザキイチゲをはじめ、様々なスプリング・エフェメラルを観察します。一緒に花を見に行きませんか?

※2 3出複葉: 3個の小葉からなる複葉(葉身が全裂しており、2個以上の部分に分かれている葉)

企画展示

「季節とともに生きる
只見の野鳥とその生態」

期間: 6月7日(日)まで開催中!

自然観察会

「春植物を愛でる!」

5月2日(日) 場所: 黒谷川流域

「春のブナ林を歩く!」

5月3日(月) 場所: 布沢地区 癒しの森

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください